

令和5年度 墨田区立 言問小学校 経営報告書

校長名 中嶋 保徳

学 校 目 標	本校では、人間尊重の精神を培い、国際社会に生きる心豊かなたくましい実践力のある子の育成を目標とし、次の教育目標を設定します。 (ア) ゆたかな子 (イ) 明るい子 (ウ) やりぬく子
目 指 す 学 校 像	[全ての児童が将来に夢や希望・地域に誇りをもてる学校] ～「あなたもわたしも大切な一人」を基盤として～ 子供たちにとって、心身共に、安心・安全に学校で生活できることを基盤とし、勉強も、運動でも自分に自信を持ち新たな挑戦をする力、友達と支え合いながら繋がっていきとうとする心情、学校を、住んでいる町をもっとよくするために自分も役に立ちたいと思態度を育てる。
目 指 す 子 供 像	自他を大切にしながら、心身ともに健康で、自ら何事にも根気よく取り組む児童
目 指 す 教 師 像	人間的、社会的に成熟した存在として、児童に範を示し、児童を愛し、児童のために研鑽し、児童に成長を実感させ、児童とともに成長を喜び合える教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。 ①学習内容や場面に応じ、効果的にタブレット端末活用した授業を実施する。	B	B	○端末の特性を生かし、発表、意見交換で活用、ノートの併用を行った。また、まなびや難言教室で児童の実態に合わせ活用した。 ・友達の前でも、自身をもう手発表できるよう、意見の練り上げなどで活用し、積極的な発言につなげる。	A	A
	②主体的に学習に取り組む土台として学習に必要な、基礎的な内容を習得させる。	A	B	○計画的な実施を行い算数、国語については基礎的な力を付けてきた。 ・理科、社会科や英語などについても、言問塾の中でフォローできるよう計画する。	A	A
	特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行う。 ①校内委員会の充実を図り、個別の指導計画に基づき、組織的かつ計画的な指導・支援を行う。	A	B	○特別支援委員会の開催や生活指導夕会での学校全体で共通理解を図り、対応できる組織作りを行った。 ・初動を迅速かつ確に行うために、シャボテンログの活用などを充実する。保護者への校内体制の活動の様子なども周知していく。	A	A
	②通常学級においても合理的配慮を必要としている児童が適切な支援を得られるようにする。	A	B	○教員研修を行い、児童理解、教室環境整備などについての教員研修を行った。 ・SCや巡回心理士による児童観察やフィードバックを受けながら、児童の困り感に寄り沿った教室整備環境整備や相談体制を充実させていく。	A	A
社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。 ①自分の将来について、人や社会とのかかわりの中考えられるように、組織的・体系的な指導を行う。	B	B	○段階的な将来に対しての見通しをもたせるために、低・中学年における地域巡りや、高学年の地域や保護者の協力を得ながらのキャリア教育授業の計画的な実施を通じた。 ・持続的かつ、幅広い区教委の地域支援ネットワークの活用や地域人材の発掘を行う。 ○小一、中一ギャップの軽減のため、幼保小中連携での分科会毎の授業研究や情報交換保育参観などを行いスムーズな接続を行った。	A	A	

様式 4

<p>②自分の良さに気づき、肯定的に自分を受け入れ、自発的に人と関わり、何事にも挑戦しようとする気持ちの醸成。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>・授業などは児童の職業観育成に一定の効果はあった。今後は、授業内でのキャリアパスポートの効果的な使用を考えながら、将来を見通した計画の充実を図る。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。</p> <p>①研究推進、学力向上検討委員会を核とし、授業力向上に向けた校内研修など組織的な取組を推進する。</p> <p>②ICTを使い興味を喚起し、児童自身がタブレット端末を活用し、情報活用、協同、表現、論理的思考力を身に付たりする指導を行う。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>○教員相互が授業を見合う日常研究や事前の模擬授業、研究を行いながらの校内研究により、指導についての共通理解とともに、互いの良さを学ぶ機会を日々の授業に生かした。</p> <p>・次年度は国語から算数に校内研の教科が変わるが、今年度までの研究成果を、今後の指導に継続するためのまとめを行う。</p> <p>○調べたり、意見交換をしたり、また個人で考えをまとめたりするなどタブレットの特性に応じた使用を授業内に設定した。</p> <p>・タブレットの活用により、短時間に意見交換ができるようになった。ジグソー法など思考を深める指導法を取り入れていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>・学校公開も行も実施され、学校における授業改善の様子も見ることができた。</p> <p>・ICTやタブレットの活用は子供たちすぐに身に付ける。子供たちの学びに生かせるように授業を工夫して行って欲しい。止めないようにしてもらいたい。</p> <p>・キャリア教育については、キャリアパスポートなど分かりづらいものもあるが、将来に見通しをもって生活していく指導にも力を入れて行って欲しい。</p>				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	児童・生徒の心情に寄り添った教育活動を推進し、いじめ、不登校等や問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。			○日常的な児童理・解指やふれあい月間のアンケートによる、や早期発見。各校内委員会の委員会の定期的な開催などの体制を整えた。		
	①いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。	A	B	・学級会や児童会活動などの機会を通して、児童自らが当事者意識をもちいじめ防止の機会を計画する。	B	A
	②問題行動への組織的対応に必要な校内体制の確立、問題対応のための専門的な内容の共通理解の場の設定。	A	B	○生活指導夕会やSCやSSWとの連携による組織的に問題解決体制の確立。Icheckの分析を基にした学級経営の改善を行った。	B	A
				・日常生活の中で、相手の気持ちを考えた言動など基本的な指導を丁寧に行う。		
生活指導等	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。			○コロナ禍あけではあったが、全学級による校門での挨拶運動の実施などの成果もあり、児童も挨拶を意識できた。		
	①望ましい人間関係、安全な地域づくりのための基本として、自発的な挨拶ができるようにする。	A	A	・児童から自発的な挨拶については、まだ十分ではないので、引き続き生活指導目標や、挨拶運動などを通して、挨拶の大切さの心情的な理解を図っていく。	A	A
	②学級会や特別の教科道徳を通し、クラスなどの課題を受け止め、友達と議論を重ねながら解決していくよう指導していく。	A	A	○学級会や委員会活動などの取り組みの中で、課題を話し合いで解決しながら、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる基礎を養った。	A	A
生活指導等	危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。			○生活指導においては、教員の共通理解を図るとともに、児童に対しては単にルールを守らせるのではなく、安全・安心のために考えるよう指導した。		
	①校外内において「安心・安全な生活」を意ルールの意義を	A	B	・年度当初により安全・安心のために自主的	B	A

様式 4

<p>考え、安全な環境を自ら作るうとする信条の醸成。</p> <p>②様々な状況において、危険を回避するとともに、万が一の場合は適切な判断をし、身を守る行動ができる児童の育成</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>に行動できるよう計画的に指導していく。</p> <p>○消防署と連携した訓練など様々な災害を想定して避難訓練を行った。講話などを工夫し自分事と捉えるように指導した。</p> <p>・避難訓練においては事前指導とともに、事後指導も丁寧に行うことで、児童自身に成果と課題をもたせ、考える活動も行う。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p> <p>・コロナ禍あけではあったが、子供たちへの心のケアもあり明るい姿が見られた。</p> <p>・不登校、いじめについては学校、家庭が連携し防止に努めてもらいたい。また SNS などのネットでのトラブルや、命を守る指導については特に力を入れてもらいたい。</p> <p>・挨拶については登校時など子供たちからする姿が見られる。安心・安全については引き続き学校・地域が協力して子供たちに声をかけるなど、地域全体でも意識を高めていきたい。</p>					

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う			○「あなたもわたしも大切な一人」の理念を共通理解し、人権尊重の基盤とした教育活動を教員が意識して行う事ができた。		
	①学校経営方針の周知と、確実な実施の確認。	A	A	・児童が安心して通い、自分を伸ばせる学校となるよう学校経営の周知徹底を行う。	A	A
	②4級職を中軸としつつ、主任教諭層を中心に校務改善、組織的OJT等を企画させ、学校組織の活性化、指導力の向上を図る。	B	B	○職員会議のペーパーレス化など効率的な運営に伴い、教材研究などへの時間を確保することができた。	B	A
	○子供のための時間を確保するため、ICT を効果的に使用し、会議の精選、時間短縮及び、人材育成の行える校分掌の編成を行う。					
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。			○学力向上プランの作成、見直しに基づいて、授業改善、放課後学習を実施した。自主学习ノートの活用など自発的な学習を促した。		
	①児童の実態を把握、分析し児童が意欲的に学習に取り組むためのプラン作成・実施	A	B	・自分の意見を持ち、進んで発表できるよう、個⇄集団など話し合いの中で練り上げる授業を工夫する。	B	A
	②学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりのため、学校関係者等による評価の実施とその結果を公表し、の組織的・継続的な改善を図る	A	A	○様々な状況を考慮しながら、地域、保護者の意見を反映して行事、地域教材を活用した授業を実践した。	A	A
	・学校公開では様々な教科や ICT 活用場面など、授業への取組がわかりやすい工夫をしていく、					
	適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。			○教育環境の整備や、安全を意識した授業準備などを進めることはできた。校舎老朽化に伴いいくつかの点で不具合がある。		
	①児童が「安心・安全」に生活できるとともに、充実した学習ができる環境の管理及び整備	B	B	・校舎の不具合については、区と連携しながら改善を進め、教育環境の向上を図る。	A	A
②学習資料や成果物など校内掲示を充実させ児童の日頃の学びや学校生活に生かす	B	B	○学級においては、学習の成果物を計時することで、お互いの良さや自分の成長を感じる良い機会とできた。	A	A	
・校内掲示については、行事や児童の作品の他に、安全な学校生活を意図した計時を計画的に行う。						
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p> <p>・学校運営については、教職員が一致団結してこれからも日常的に教育活動に取り組んでもらいたい。学校長のリーダーシップを発揮して欲しい。</p> <p>・学力については区学力調査結果等を通して、子供たち一人一人の課題を把握し、子供たちにわかりやすい授業を引き続きお願いしたい。</p> <p>・施設管理については、区とも相談しながら、子供たちの学習が豊かになり、また、安心してできるよう今後も取り組んで欲しい。</p>						

様式 4

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。	B	B	○学校、学年便り、ホームページなど日常的な額種の様子や、計画的な校内掲示による児童の学習の成果を見えるようにしてきた。 ・COC00 配信によりペーパーレス化は進んだが、複数配信などにより、見づらい事もあり、内容の精選や発信頻度など考慮していく。	B	A
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。	A	A	○地域人材を生かした授業や催し物など、PTAや地域の方々の協力を得て行う事ができた。児童も積極的に参加していた。 ・将来的に地域を支える人材育成につながるよう、今後も保護者、地域の方の協力を得ながら授業などを計画していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・学校公開、運動家や展覧会なども開催され、子供が活躍できる姿が見えてよかった。できるだけ多くの情報発信をすることが学校への理解と信頼につながると思う ・手紙の配信などは情報機器メリット・デメリットを考えながら進める必要がある。 ・地域でも祭りなど様々な催し物が復活してきた、児童の参加も多く活気が出てきた。				

2 令和5年度学校評価のまとめ

<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動など成果もあり、子供たちのあいさつについて多くの評価をいただいた。人とつながる第一歩としての挨拶の指導を継続する。 ・一人一台の端末を使った学習を進めることで、児童のわかる授業、できる授業を推進した。端末の良さ、実際に書く事の良さを共に生かしながら授業を展開する。 ・タブレット端末の持ち帰りに伴い荷物が重くってきている。言問小においてはタブレット導入時より、国語・算数以外の教科書類は学校に置いてよいことになっていたが周知が不十分であった。改めて、置いていく物の内容なども含め検討し周知していく。 ・学校行事については、授業時数の確保、また時期による天候などの児童の健康への影響などを考慮しながら、子供たちの豊かな学びになるように計画していく。 ・日常的な友達同士の言葉遣いや行動について、相手の気持ちを考え気持ちよく行動できるよう指導を続けるとともに、児童の問題行動に対する早期発見・早期解決を図る上で、教員間の共通認識、迅速な共同体制の構築をさらに進める。 ・学校行事の内容や土曜授業の回数などについては、児童の豊かな学びにつながるようにするとともに、特に、水泳指導や運動会については夏場を中心とした高温による児童の健康への影響なども考えながら計画する。 ・項目によっては「わからない」の回答が多いものもあった。学校便り、学年便り、やホームページや授業参観などで学校の様子を見えるように工夫する。 ・タブレットの使用については、学習の特性に応じたノートとタブレット適所での使い方を授業で工夫するとともに、ネットリテラシーなどの指導など計画的に進めていく。
--

以上の通り報告いたします。